小中連携・英語コミュニケーション能力育成事業から学んだこと

青山敬明（AOYAMA Takaaki）
愛媛県西条市立河北中学校

要約

私の前任校である丹原東中学校は，平成２３年度に愛媛県教育委員会「英語コミュニケーション能力育成事業」の指定を「東予推進ブロック」として受け，小・中学校が連携して英語コミュニケーション能力を育成するためにはどうすればよいかということについての研究実践を行った。本稿では，西条市が取り組んでいる「小中連携事業」と，「英語コミュニケーション能力育成事業」での学びから，今後の小中連携のあり方について考えた。

（キーワード：小中連携，英語コミュニケーション能力育成事業，小学校外国語科）

１．西条市，丹原東中学校について

西条市は石鎚山のふもとに位置し，市街地では「うちぬきの水」などが有名である。市街地から少し離れたところに，田園風景の広がる旧丹原町がある。旧丹原町は，あたご柿や，四国別格二十霊場のひとつである西山興隆寺などで有名である。

西条市立丹原東中学校は，この旧丹原町にある公立中学校である。丹原東中学校は，近隣４つの小学校から生徒が入学してくる中学校で，各学年３クラスずつ，全校生徒３００名程度の中学校である（図１）。「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を教育目標として掲げ，「勤労」「自律」「礼儀」を校訓として定めている。

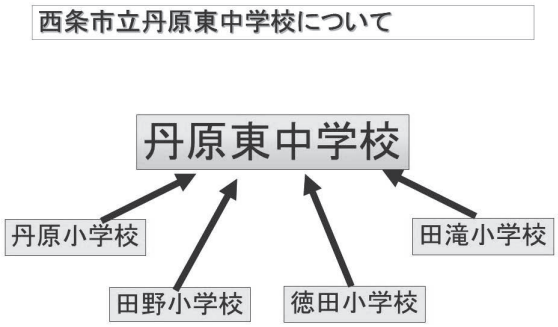


図１　中学校区図

２．西条市小中連携教育推進事業について

西条市では「小中連携教育推進事業」を行っている（図２）。内訳は「中学校区別懇談会」「連携年間計画の作成と実践」「授業参観」「出前授業」「仮入学」「行事交流」「部活動体験」などである。小中のギャップを埋め，小学校から中学校への円滑な連携を促している。

西条市小中連携教育推進事業について

西条市教育委員会では、小学校・中学校間の交流・連携を目的とした「小中連携教育推進事業」を実施しています。
この事業は、各中学校区に所属する小学校・中学校を一つの単位として活動し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間における児童生徒の発達や各教科等の内容の連続性、教育課程のあり方に関する研究を推進して、確かな学力と豊かな心の醸成、児童生徒一人一人が自分の力を十分に発揮し学校生活を送ることを目的としています。

【内容】

- 中学校区別懇談会の実施
- 小中連携年間計画の作成と実践
- 授業研究等の交流
- 互いの専門性を生かした出前授業の実施
- 文化祭や運動会での交流、部活動体験等、小中学生の交流

図２　西条市小中連携教育推進事業について

「中学校区別懇談会」では，公民館に集まり，生徒指導，ユニバーサルデザインなどのテーマで分科会を行ったりしてきた。また，この「小中連携教育推進事業」に加えて，人権・同和教育のための小学校教員・中学校教員・地域住民の地区別懇談会といった交流もある。

「出前授業」や「仮入学」は，中学校教員が小学生に中学校の授業を体験してもらう機会を提供するものだ。

本稿で後述するように，「英語コミュニケーション能力育成事業」において，英語の出前授業を行ったが，西条市には元来，英語だけには限られない小中連携の幅広い枠組みがある。今までも，国数理社などの教科は，特にこのような「小中連携教育推進事業」の枠組みの中で，出前授業などを行ってきた。

このように，「小中連携教育推進事業」を行っていくに従い，小・中学校教員の意識の違いが見えてきた。例えば部活動のあるなし，教科における教えるべき基礎についての見解の不一致，学習習慣・学習姿勢に関する意識の違い，生徒指導における指導の違いなどである。

これら，小・中学校教員の意識の違いについて，今後いかにすり合わせ，小・中のギャップをなくしていくかが今後の課題であり，小中連携を行う意義である。今後，小学校で外国語が教科化される際には，ますます小中連携が求められるであろう。その際，小中連携がますます加速し，児童・生徒にとって，学びをよりスムーズに継続しやすい環境になることが求められている。

しかし，日々多忙な教員にとって，ますます負担が増える小中連携を行うことは容易ではない。以前から言われている，教員の雑務の軽減，教員の絶対数の増員などを達成するとともに，学校をあげて小中連携の時間を確保し，効率的に連携を図ることが必要である。

３．平成２３年度「英語コミュニケーション能力育成事業」について

愛媛県教育委員会では，平成２３年度小学校，平成２４年度中学校で全面実施となった新学習指導要領における教育内容改善のポイントの一つ「外国語教育の充実」に向けて，平成２３年度から「英語コミュニケーション能力育成事業」を実施している（図３）。平成２３・２４年度は，小・中学校が連携して英語コミュニケーション能力を育成するために，同一中学校区にある小・中学校を研究指定校とする推進ブロックを県内に３ブロック指定し，指導の在り方，評価の在り方，小中連携カリキュラムの研究などについて研究した。丹原東中学校は，東予推進ブロックの一員としてこの事業に参加した。

★英語コミュニケーション能力育成事業について

平成２３年度推進ブロック学校一覧

	東予推進ブロック	中予推進ブロック	南予推進ブロック
研究指定校	西条市立丹原東中学校	松前町立北伊予中学校	八幡浜市立愛宕中学校
	西条市立丹原小学校	松前町立北伊予小学校	八幡浜市立白浜小学校
	西条市立徳田小学校		八幡浜市立江戸岡小学校
	西条市立田滝小学校		
	西条市立田野小学校		

推進ブロックにおける研究報告、推進ブロックで作成した小・中連携カリキュラムを閲覧できます。

	東予推進ブロック	中予推進ブロック	南予推進ブロック
平成２３年度	研究報告（PDF）	研究報告（PDF）	研究報告（PDF）
	小・中連携カリキュラム（PDF）	小・中連携カリキュラム（PDF）	小・中連携カリキュラム（PDF）

図３　英語コミュニケーション能力育成事業について

本事業の一環として行った公開授業に参加した生徒は，新学習指導要領が小学校で先行実施されていたため，５・６年生時に小学校の外国語活動を経験してきた生徒であった。当時，小学校で使われていた教材は『Hi,friends!』ではなく，『英語ノート』である。小学校で英語を勉強してきた子どもたちは，コミュニケーション活動，つまり言語活動に積極的，あるいは物怖じしない子どもたちだという印象を受けた。ただし，文字指導については全く行われていなかった。当時，小学校では文字指導は行ってはいけない，という意見が大半を占めていた。

４．先進校視察について

（１）京都市立広沢小学校について

英語コミュニケーション能力育成事業の一環として，京都の先進校に視察に行かせていただいたので，報告させていただく。視察に行かせていただいたのは，京都市立広沢小学校と，京都教育大学附属京都小中学校のふたつである。

京都市立広沢小学校は，京都駅から電車で１５分ほどの閑静な住宅街にあり，各学年２，３クラスずつの中規模の小学校である。平成１５年から，『英語ノート』の開発にも携わったという京都市教育委員会の指導主事であった方の助言を受けながら研究を進めており，当時すでに９年間の研究実践の積み重ねがあるとのことだった。

地域の助成により永住しているＡＬＴと，京都市委託のＡＬＴが勤務しており，全学年を対象とした独自カリキュラムを行っておられた。

平成２３年当時，小学校での外国語活動では文字指導を行わない，という雰囲気があったが，広沢小学校では低学年から絵カードに文字も添えて，文字があるということに気付

かせていく，という指導を行っていた。

６年生になると，最後の数時間はアルファベットビンゴや，『英語ノート』に「書く」練習をするなど，英語を「書く」ということを，中学校入学前に指導されていた。

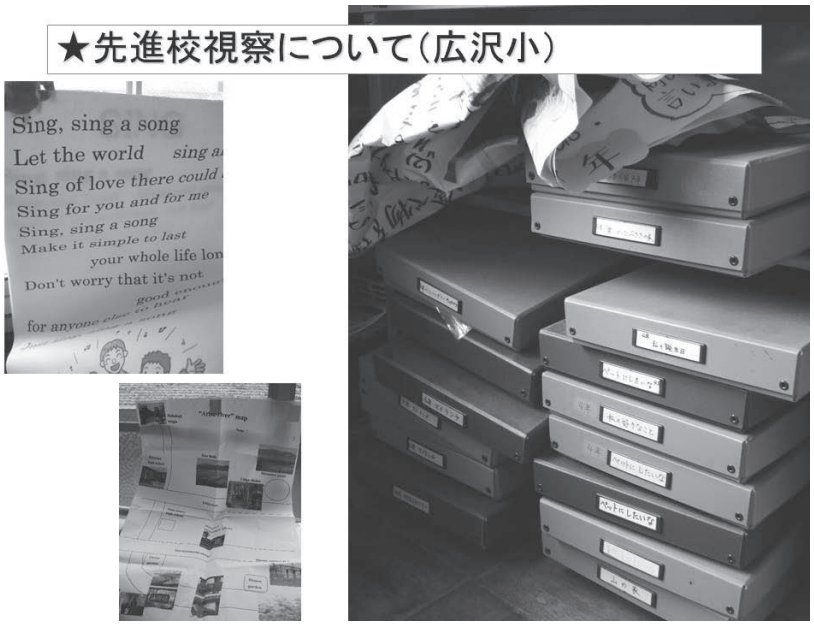


図４　授業箱

黒板には，特別支援の視点から取り入れた活動予定，授業のお品書きが掲示してあった。この授業のお品書きも含め，広沢小学校では，授業に必要なものを一式，「授業箱」に入れて管理していた。この箱を活用することにより，どの教員が，どのＡＬＴと授業をしても効率良く外国語活動が行えるようにされていた（図４）。

授業箱の中のひとつには，６年生がアルファベットを並べ替えて人の名前にしたり，グリーティングカードを作ったりするミッションゲームの掲示などが入っており，どのように取り組んだのかがわかりやすく整理されていた（図５）。

図５　授業箱の中身

広沢小学校の先生が，「外国語活動はコミュニケーションのための大切な時間だ」とおっしゃっていたのが印象的だった。当時は東日本大震災が起きたすぐ次の年度であったが，福島から転校してきた低学年の児童が，教科書や進度などの違う他の教科と違い，外国語活動の時間は楽しく活動し，みるみる周りの児童と友達になっていったということである。外国語活動の時間は，言語学習の時間でもあるが，言語の学習を通じて，コミュニケーションについて学ぶ場でもあるのだと再確認した。

（２）京都教育大学附属京都小中学校について

京都教育大学附属京都小中学校は小中一貫の学校のため，小中９年間を４年・３年・２年にわけたカリキュラムを実施し，英検突破コースや英会話強化コースなどの特別コースの授業を行っていた。

２００９年度（平成２１年度）に文部科学省「英語教育改善のための調査研究事業」第３型の３年間研究を指定され，その３年目に当たる年だった。

京都小中学校では，英語の絵本，読み物指導に力を入れていた。それぞれの本に丸いシールを貼り，独自にレベル分けし，レベル別にかごに入れていた。これらを読み，レポートを書くような課題も行っているそうだ（図６）。

図６　レベル分けされた本

京都小中学校では，中等部で職員室が同じため，中学校の英語の教員が，英語専科として小学校高学年の授業を担当することができるということだった。このおかげで，生徒の情報交換も容易となったそうだ。このため，アンケートで「小学校英語と中学校英語は全然違う」という解答が激減した，とおっしゃっていた。

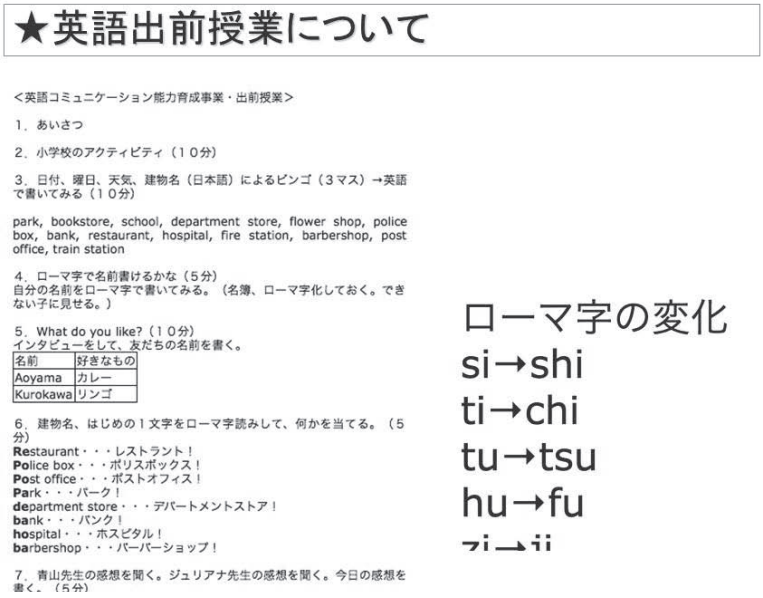
５．英語出前授業について

「英語コミュニケーション能力育成事業」では，丹原東中学校区の４小学校に出向いて，出前授業を行った。これは，普段の学校勤務の中では難しい，「英語コミュニケーション能力育成事業」がなければなかなか実現しない取り組みだった。

授業内容については，まず小学校で毎回行っているウォーミングアップを小学校の先生に行っていただいた。絵本の読み聞かせ，リズム体操，英語の歌などさまざまだった。

次に，日付，曜日，天気を答える会話活動を行い，その頃行っていた「道案内の活動」で覚えた建物を使ったビンゴを行った。子どもたちは日本語で書き，私は英語で読み上げてビンゴをした。

次に，新学習指導要領でさらに低年齢で覚えることになったローマ字の復習として，自分の名前をローマ字で書かせた。中学校英語で使うヘボン式のローマ字についても紹介し，ヘボン式で書いてもらった。各校のＩＣＴの取り組みや，家庭のパソコン環境，キーボードでローマ字打ちを使う子とそうでない子で出来が別れた。やはり，日常生活で使っている場合と，そうでない場合とでは学習の定着度は違う。スマートフォンやタブレットが普及した昨今では，コンピューターに堪能な家庭でも，普段キーボード打ちは行わない，という児童も増えてくるだろう。できれば小学校で，何らかの形でローマ字に慣れさせておきたい。


★英語出前授業について

＜英語コミュニケーション能力育成事業・出前授業＞

1．あいさつ

2．小学校のアクティビティ（１０分）

3．日付、曜日、天気、建物名（日本語）によるビンゴ（３マス）→英語で書いてみる（１０分）

park, bookstore, school, department store, flower shop, police box, bank, restaurant, hospital, fire station, barbershop, post office, train station

4．ローマ字で名前書けるかな（５分）
自分の名前をローマ字で書いてみる。（名簿、ローマ字化しておく。できない子に見せる。）

5．What do you like?（１０分）
インタビューをして、友だちの名前を書く。

名前	好きなもの
Aoyama	カレー
Kurokawa	リンゴ

6．建物名、はじめの１文字をローマ字読みして、何かを当てる。（５分）
Restaurant・・・レストラント！
Police box・・・ポリスボックス！
Post office・・・ポストオフィス！
Park・・・パーク！
department store・・・デパートメントストア！
bank・・・バンク！
hospital・・・ホスピタル！
barbershop・・・バーバーショップ！

7．青山先生の感想を聞く。ジュリアナ先生の感想を聞く。今日の感想を書く。（５分）

ローマ字の変化
si→shi
ti→chi
tu→tsu
hu→fu

図７　出前授業について

次に，前回の外国語活動で覚えた対話活動を行った。

それから，ローマ字を基本にした，読みの活動を行った。その頃勉強した建物のつづりを示し，それが何かを当てさせた。例えば，“ＲＥ”が読めた子どもは，「レストラン！」と，元気に答えてくれた。

最後に，なぞり書きで，英語を書く活動を行った（図７）。

６．公開授業について

次に，事業の中で行った公開授業について報告する。

公開授業の事前学習として，小中連携を意識し，音声と文字の関連に関する体系的な学習が必要と考え，フォニックスを導入した（図８）。

また，辞書の使い方についても，単語を調べて意味の頭文字をとると言葉になるゲームなどを取り入れて指導した。例えば，Dutch, gently, cane を調べて，意

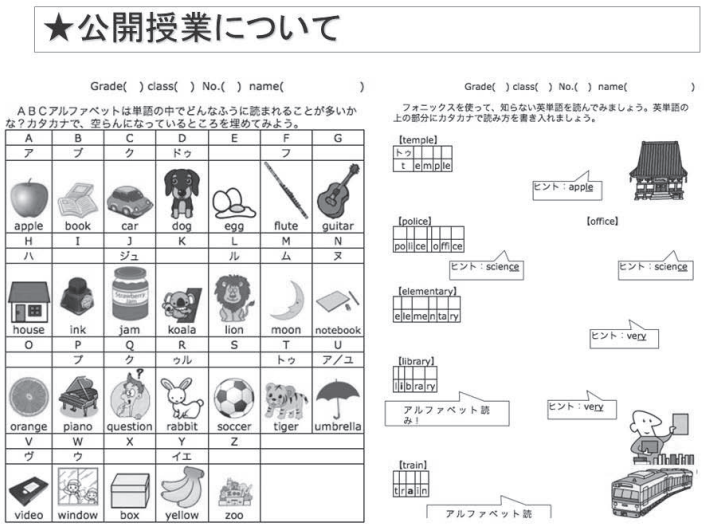
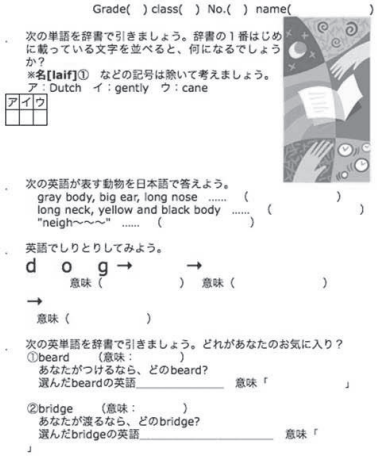


図８ フォニックス

味の頭文字をとると「おやつ」となる。また，わからない言葉を辞書で調べながら，示している動物を当てるゲームや，しりとりの作成，絵の資料があるページを開けさせ，あなたならどのヒゲ？などといった活動を行った（図９）。

★公開授業について


Grade(　) class(　) No.(　) name(　　)

次の単語を辞書で引きましょう。辞書の１番はじめに載っている文字を並べると、何になるでしょうか？
※名[laif]①　などの記号は除いて考えましょう。
ア：Dutch　イ：gently　ウ：cane

ア	イ	ウ

次の英語が表す動物を日本語で答えよう。
gray body, big ear, long nose ……　(　　)
long neck, yellow and black body ……　(　　)
"neigh〜〜〜" ……　(　　)

英語でしりとりしてみよう。
d　o　g →　　→
意味（　　）　意味（　　）
→
意味（　　）

次の英単語を辞書で引きましょう。どれがあなたのお気に入り？
①beard　（意味：　　）
あなたがつけるなら、どのbeard?
選んだbeardの英語＿＿＿＿＿＿　意味「　　」

②bridge　（意味：　　）
あなたが渡るなら、どのbridge?
選んだbridgeの英語＿＿＿＿＿＿＿＿　意味「　　」

図９　辞書指導のプリント

公開授業では連携を意識し，小学校外国語活動で行ったことのある「道案内」の活動を，中学校でレベルアップした形で行った。

「道案内」の授業では，小中共通教材として校区の地図を作成し，活用した。地図の作成においては，写真撮影などで，各小学校区の先生方に協力していただいた。この地図は，PowerPoint と PDF のデータにして小中学校で共有し，小学校でも中学校でも使えるようにした。

授業は，グループごとにＡＬＴの先生にテーマに沿って校区を道案内する，というものだった。例えば「おいしいもの」のテーマでは，レストランやスーパー，畑などを案内する。拡大印刷した地図の上にマグネットをつけ，実際にＡＬＴの先生が動かして移動していただいた。

★公開授業について

図１０　ＫＪ法による研究協議

小学校の先生方には熱心に授業を見ていただき，その後の研究協議では，円を「教材」「生徒」「指導」の３つに分けて付箋紙を貼ってもらい，ＫＪ法で協議を行った。協議の中では，評価に関すること，文字指導（ローマ字）に関すること，フォニックスに関することなどが取り上げられた（図１０）。

７．小中連携カリキュラムについて

今回の事業で，連携カリキュラムを作成し，ホームページ（http://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/02shidou/03shidou/eigo_commu/eigo_commu.htm）上で公開した（図１１）。このあとすぐに『英語ノート』は『Hi, friends!』に変更となり，今後，採用教科書も変更される可能性があるが，小学校のカリキュラムと中学校のカリキュラムをすりあわせるという取り組み自体に意味があったと感じている。小中の英語教育を見通すことができ，小学校での学習内容と中学校での学習内容が浮き彫りとなったので，そのアクティビティを繰り返し巻き返し行い，中学校でレベルアップするような形で行うことができるようになった。

★連携カリキュラムについて

小学校外国語活動（英語ノート）・中学校英語（NEW HORIZON）連携カリキュラム
東予西条市ブロック

No.1　　●目標　○主な活動・表現　☆連携のポイント

英語ノート　1	英語ノート　2	中学英語　1	中学英語　2	中学英語　3
数で遊ぼう	いろいろな文字があることを知ろう	数字		
● 世界の数の数え方や遊びに興味をもつ。 ● 積極的に数を使ったゲームをしようとする。 ● １～２０の数を使い、いろいろなゲームをする。	● 世界の様々な文字に興味を持つ。 ● アルファベットの小文字を見て、その読み方を言ったり、それの大文字と一致させたりする。 ● ２１～１００の数の言い方に親しむ。	● １００までの数字の言い方がわかる。 ● 自分の年齢が言える。		
○ いろいろな国の言葉じゃんけん ○ 数を使った歌 ○ 数を使った様々なゲーム	○ 動物を数え ○ ブロック積り ○ アルファベット探し・線結び	○ 電話番号を言ったり、聞き取ったりする。 ○ 簡単な足し算・引き算		
・How many? numbers(1～20) ,rock ,scissors,paper how,many	・What' s this? It's～? アルファベットa～z numbers(21～100)192	・My phone number is .... ・Twelve plus eight is twenty.		
☆　数字は児童生徒にとって身近なものであり、日常の生活での使用場面が多く考えられる内容である。中学校でも、小学校で行ったゲーム等をうまく活用すると、スムーズな導入ができる。 小学校で数字の聞き取りに慣れさせておくと、中学校への接続が容易になる。				
自己紹介をしよう		わたしの自己紹介		
● 日本語には様々な英語が起原の言葉（外来語）があることに気付く。 ● 友だちと積極的に好き嫌いを聞き合う。 ● 英語で自分の好き嫌いを相手に		● ４技能統合の自己表現活動として自己紹介をする。 ● 自分で取り上げる話題を選び、自己紹介の英語を書いたり、話したりする。		

図１１　連携カリキュラム

★連携カリキュラムについて

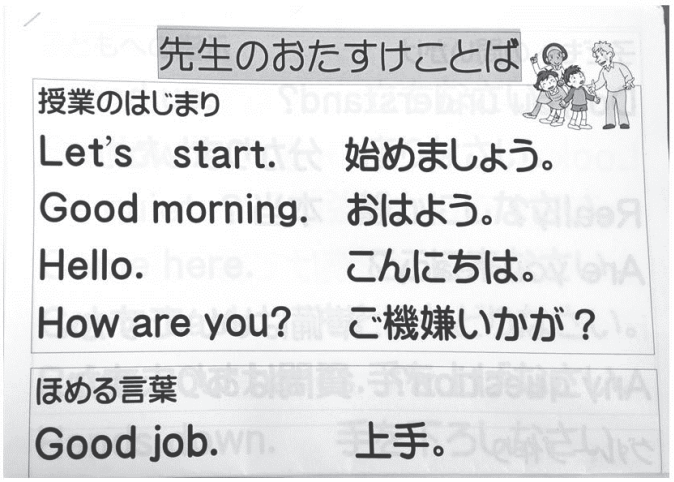


図１２　おたすけことば

また，本事業を通して，先生のおたすけ言葉や生徒のおたすけ言葉として，クラスルームイングリッシュの統一もはかった。これにより，児童・生徒はさらに小中のスムーズなステップアップができると考えた（図１２）。

８．終わりに

今回，「英語コミュニケーション能力育成事業」に携わらせていただいたおかげで，出前授業の機会や，推進委員会による協議の時間が取れ，小中の教員の連携が深まり，また，小中お互いの学校の連携が深まった。その後，教員の異動や教材の変化などもあったが，

「不易と流行」という視点で言えば，昨今の英語教育にはそのような変わっていく「流行」の要素も多くあるが，小中連携という枠組みや，小学校の先生方の英語に対する熱心な取り組み，また，小学校の卒業生を受け入れる中学校教員の取り組みなどは「不易」のものであると考える。平成２８年度まで継続する予定のこの「英語コミュニケーション能力育成事業」は，現在は，小中高連携などをテーマに，新しい指定校にて事業が続いている。今後ますますそれぞれの学校の連携が求められている現在，各校できる限り門扉を開き合い，オープンな形で連携を進めていきたい。

また，西条市では，平成２６・２７年度，小中連携事業に加えて，「学び合い」を中心とした，市をあげた教育の枠組み作りがなされている。これは英語に限られたものではないが，この枠組みを活用して，新任校でも地域の小学校に授業参観に伺うことができた。このような機会を利用しながら，小中の連携を深めていく不断の努力を行わなければならない。

最後に，西条市のＡＬＴは中学校区の小学校や保育園などにも行っているため，このＡＬＴの先生の役割というのも，小中連携では大きいものとなる。できれば，長く同じ校区のＡＬＴをしていただき，小学校から中学校に入学しても，「あ，あのＡＬＴの先生だ！」と，子どもたちにとって，小学校と中学校のつながりを感じられる機会になると良いかと思う。